

講評

選定審議会では、以下のような意見を付して、第2次評価を第1位で通過した応募者を候補者として選定した。

85,340㎡に及ぶ敷地面積を有する農業センターの、それぞれのエリアの特性や既存資源等を効果的に活用しつつ、公園全体を一体感のあるデザインで一新して演出する魅力的な提案として評価した。全体として、愛知県産材を含めた国産材を積極的に使用した木造であり、かつ木造であることを視覚的に上手く表現したデザインであったこと、また成牛舎は見学ルートが1階のみではなく2階にも設けられており、乳牛の様子や酪農の営みを多様な視点から観察できる施設として計画されたことを高く評価した。さらに、構成している各企業のこれまでの実績と高い専門性に基づいて、それぞれの役割が明確に示されていることが、農業センターが有する多様な魅力を今後一層引き出していけるものとして期待できた。

本事業を実施する際には、本審議会において評価した具体的な提案内容を確実に実行するのは当然のこと、本事業をさらに良いものとするために、特に次の点について要望する。

- 農業センター産の生乳については、加工を外部に委託して園内で販売する計画を確実に実施するとともに、体験講座での使用も含め、農業センターのオリジナル性を損なわないよう活用すること。
- 家畜伝染病が発生した際の影響の大きさに留意し、適切な衛生管理区域を設定するとともに、実効性の高い防疫対策の運用に努めること。
- 搾乳ロボットをはじめとする先端技術を取り入れた設備計画であるが、機械化に偏重することの弊害にも配慮し、酪農に携わる人の存在も含めた情報発信に努めること。
- 成牛舎内の2階部分など、施設全体に誰もがアクセスし利用できるよう、バリアフリー・ユニバーサルデザインの観点等に十分配慮すること。
- 設計・施工にあたっては、建設コストにかかる今後の状況変化には柔軟に対応し、提案のエッセンスである一体感のあるデザイン等が損なわれないよう工夫すること。
- 代表者は、連合体の構成員同士の連携を綿密に図るとともに、提案内容の詳細について名古屋市と十分協議を行うこと。

候補者は、これらの意見を十分に尊重し、農業センターがこれからも多くの市民に愛され、ひいては「農」を通じて自然や命の尊さを伝える「市民と農の架け橋」であり続けるよう取り組んでいただきたい。